

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第 8 号

平成 29 年 6 月 26 日発行

須賀川市立第二中学校

☎ 75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

県中大会を通過点に 県大会に団体 7、個人 23



6月14日(水)、15日(木)に行われた県中地区中体連総合体育大会で、裏面に掲載したとおり、団体戦で7チーム、個人戦で23人(またはペア)が県大会の出場権を獲得しました。なお、この数字には陸上の県大会出場2名、水泳県大会出場6種目5名は含んでいません。

岩瀬地区大会と違って会場が遠方に分散しているため、もっとも多くの会場に出向けるよう経路を精査した結果、卓球、剣道の2競技については応援に行くことがで

きなかったことを最初にお詫びいたします。

さて、上位の大会になると、初戦から各地の予選を勝ち抜いた実力校が相手です。主導権を相手にとられないよう、試合の入り方がとても重要だということを痛感させられました。また、体力、特に持久力または回復力が大切です。終盤で逆転されないよう、1回戦、2回戦、・・・決勝戦と進んでも力が落ちないようにする必要があります。特に、団体戦にも出場し個人戦にも出場して、それなりの結果を残すためにはそれなりの鍛錬が必要です。身体の疲労に気力や集中力を奪われますから、日頃から心身両面からの鍛錬を自ら求めなければなりません。

参考までに、剣豪 宮本武蔵は「100日の稽古を『鍛』と言い、1000日の稽古を『錬』と言う。」という言葉を残しています。3ヶ月の継続、3年間の継続が成果・上達の節目になるようです。

ともあれ、県大会に勝ち進んだ3年生には、3年間練り上げたもの(『錬』)を余すところなく発揮できるよう練習・調整してほしいですね。

ソフトテニス部の女子は、団体優勝、そして個人戦でも1位と3位という優秀な成績を収めたにもかかわらず、「県大会に向けての課題が明らかになった。」と頼もしい言葉を聞かせてくれました。その課題解決のためには、県大会までの残り少ない練習期間に、弱点や欠点を克服することも大切です。しかし、一方で長所や得意技に磨きをかけるというアプローチもあります。試合の苦しい局面でチームを救ったり、試合の流れを引き寄せたりしてくれるのは、そういう練習で培ったものかもしれません。

さあ、どこまで登りつめることができるのか。可能性に挑戦です。



決めたぜ、県大会

<団体>

- ソフトボール（女子） 優勝
サッカー 第3位
ソフトテニス 男子 優勝
女子 優勝
バドミントン 男子 第3位（県大会出場ならず）
女子 準優勝
柔道 男子 優勝
体操 男子 準優勝

※体操団体は、県大会オープン参加

<個人>

- ソフトテニス 男子
3位 安藤達也・橋本蒼弥ペア
Best 8 会田楓輝・吉田航ペア
ソフトテニス女子
1位 鎌田美樹・永沼さくらペア
3位 柏原梨花・ミヒニャック杏菜ペア
Best 8 佐藤愛華・小林愛ペア

バドミントン男子シングルス

2位 鈴木一徳

バドミントン男子ダブルス

5位 板谷尊・藤田京平ペア

バドミントン女子シングルス

2位 上田彩乃

バドミントン女子ダブルス

2位 菅原藍・角田陽真里ペア

5位 矢吹美空・野村希愛ペア

柔道

50 kg 2位 森駿介 3位 矢吹翔

55 kg 2位 佐藤優璃

66 kg 3位 榊枝龍希

73 kg 2位 大河原涼

81 kg 2位 加藤陽岐

90 kg 3位 十文字祐真

5位 須釜拓海

6位 岩本優翔

体操

総合 2位 阿部慎太郎

鉄棒 2位 阿部慎太郎

あん馬 1位 阿部慎太郎

2位 薄井拓真



この学校だよりは、本校 HP からご覧いただけます。